

オガクズのリサイクルで すばらしい製品づくりを

夢

追

い

人



宝燃料工業(株)大川工場

取締役 中野 秀樹さん

宝燃料工業(株)は、今から四十年ほど前、大川市の誘致に応じた企業だ。当時の大川は、家具の量産により、大量のオガクズが出ていたという。しかもそれらは、焼却すると言うよりも、むしろ堀や川の埋め立てなど使われていた。そこで、オガクズの処理に困った市の誘致を受けたわけだ。

宝燃料工業(株)では、リサイクルとしてオガクズからオガクズ炭、『オガタン』を作る。オガタンは八角形の棒状で、中心部が空洞になっている。形状から、『チクワ炭』と呼ばれることもある。

オガタンはどのように生産されるのだろうか。オガクズを気流乾燥させ、水分を除去する。そして、成型機で加圧圧縮し、オガライト(薪)を作る。そしてその後、炭化炉で、五、六日かけて、蒸し焼きにする。こうして約一週間をかけ製造される。

オガタンはどんな特長を持っているのだろうか。取締役の中野秀樹さんに伺った。「まず挙げられるのが、カロリー

が高いことです。樫炭(山の炭)の1グラム、六五〇〇カロリーの1グラム、七六〇〇カロリーに比べ、七六〇〇カロリーあります。火持ちも、一・五倍ほどあります。それに一酸化炭素を出しませんので、健康面でも優れています。他に水で消してもまた使えますし、パチパチを火走りすることもありません。」

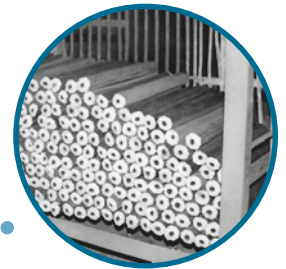
このオガタンは、焼鳥屋用、家庭用、レジャー用に人気がある。それだけではない。

宝燃料工業(株)では、このオガタンから水質浄化剤、農業用土壌改良木炭、床下調湿剤用の製品も作っている。「床下調湿剤用として、大川市の文化財である吉原邸にも当社製品が使われています。こうしてカビやシロアリを防ぐことができます。」と中野さんは言う。

宝燃料工業(株)では、更なる品質向上を追求している。その一つの要素について、中野さんは「家具や草などと同じように中国製品の台頭があります。やはり価格が安いのが特徴です。ただ、品質面で



炭化炉



オガライト



オガクズで出来た「オガタン」

一酸化炭素を出さないで健康面にもよく、水で消してもまた使えるので、焼鳥屋、家庭、レジャーにピッタリだ。

木酢液

オガタン製造の水分除去工程で、抽出でき、害虫忌避材・防臭剤として使われる。



オガクズ集積場

オガクズをリサイクルすることで資源を大切にできるのは、とても素晴らしいこと

は、私たちの製品が優位です。でも競争に打ち勝つためには、多角化や絶え間ない改良が必要だと考えています。」
こうした中、販売している製品が、木酢液だ。木酢液は今市場でも脚光を浴びている。どのように製造するのだろうか。「木酢液は、実はオガタン製造の水分除去工程で、抽出することができます。」木酢液は、無農薬の害虫忌避剤として散布されたり、殺菌作用のある防臭剤として使われる。一・ハリットルのパックで、農協用には、二〇リットル詰め販売している。
ただ近年オガクズが不足しているのが、悩みの種だ。うだ。月に六〇〇から七〇〇立米のオガクズを使用するそうだが、地元大川からは、二〇〇立米くらいだ。意外である。
どうしてだろうか。「家具の生産減少があります。」良く聞いてみると、購入しているのは、市内の十社ぐらいの製材所。そして建員の一部。木工所のオガクズはなぜ



使えないのだろうか。合板の接着剤や不純物が含まれているからだ。唯最近では、タイプ「クリーン」の事業などで、随分リサイクル意識が高まって、純粋のオガクズとそうでない物の分別がされるようになってきているようだ。
中野さんは「今後木工所との取引も視野に入れていきたい」と希望している。